

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

**As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problem Mailbox.**

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) **公開実用新案公報 (U)**

(11)実用新案出願公開番号

実開平5-86393

(43)公開日 平成5年(1993)11月22日

(51)Int.Cl. ⁵	識別記号	府内整理番号	F I	技術表示箇所
A 63 H 3/33	A	8603-2C		
3/24		8603-2C		
13/04	A	8705-2C		
29/22	L	9012-2C		
	B	9012-2C		

審査請求 未請求 請求項の数1(全3頁) 最終頁に続く

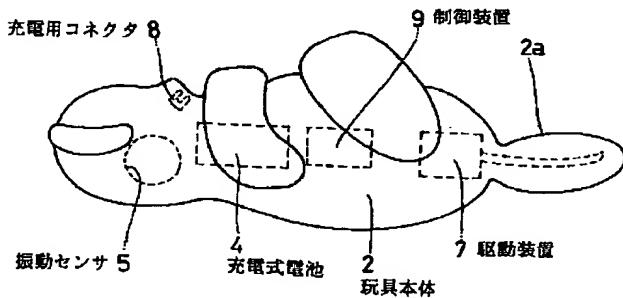
(21)出願番号	実願平4-35154	(71)出願人	000132998 株式会社タカラ 東京都葛飾区青戸4丁目19番16号
(22)出願日	平成4年(1992)4月27日	(72)考案者	安田 倫理子 東京都葛飾区青戸4丁目19番16号 株式会 社タカラ内
		(72)考案者	露木 明夫 東京都文京区湯島3丁目31番1号 株式会 社センテクリエイションズ内
		(74)代理人	弁理士 濑川 幹夫

(54)【考案の名称】 充電式音声発生動作玩具

(57)【要約】

【目的】 本物に近い仕草や泣声を発するリアル感のある面白いものを提供する。

【構成】 猫の形態を有する玩具本体2とミルク瓶の形態を有する充電器3との組み合わせから成る動作玩具1で、該玩具本体2内には充電式電池4と振動センサ5と音声発生装置6と玩具本体2の尻尾1aを動作させる駆動装置7と充電用コネクタ8とが電気的に接続された状態で設けられ、該音声発生装置6は二種類の音声を発し且つ充電時のみに発する音声と振動センサが作動時のみに発する音声とを制御装置9で制御する。また、上記充電器3には供給用バッテリー12とこれに接続され且つ上記充電用コネクタ8に対応する供給電源用コネクタ13とが設けられていること。



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】 人形、動物等の形態を有する玩具本体とミルク瓶、食べ物等の形態を有する充電器との組み合わせから成る動作玩具であって、下記要件を備えることを特徴とする充電式音声発生動作玩具。

(イ) 上記玩具本体内には充電式電池と振動センサと音声発生装置と該玩具本体を動作させる駆動装置と充電用コネクタとが電気的に接続された状態で設けられていること

(ロ) 上記音声発生装置は少なくとも二種類の音声を発するように形成されるとともに、充電時のみに発する音声と振動センサが作動時のみに発する音声とを変化させ制御する制御装置に連係され、且つ該制御装置は上記玩具本体に設けられていること

(ハ) 上記充電器には供給用バッテリーと該供給用バッテリーに接続され且つ上記充電用コネクタに対応する供給電源用コネクタとが設けられていること

【図面の簡単な説明】

【図 1】本考案に係る充電式音声発生動作玩具の内部構*

* 造を示す説明図である。

【図 2】上記充電式音声発生動作玩具の電気的動作を示すブロック図である。

【図 3】上記充電式音声発生動作玩具の充電前と充電状態を示す説明図である。

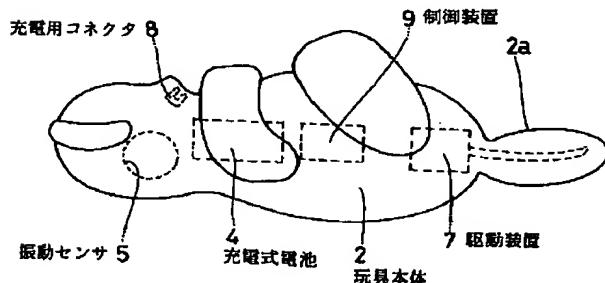
【図 4】充電式音声発生動作玩具の他の実施例を示す斜視図である。

【符号の説明】

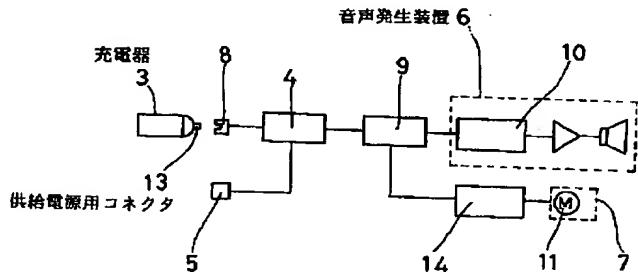
1	充電式音声発生動作玩具
10	2 玩具本体
	3 充電器
	4 充電式電池
	5 振動センサ
	6 音声発生装置
	7 駆動装置
	8 充電用コネクタ
	9 制御装置
	10 供給用バッテリー
	11 駆動装置
	12 供給電源用コネクタ
	13 供給電源用バッテリー
	14 供給電源用コネクタ

20

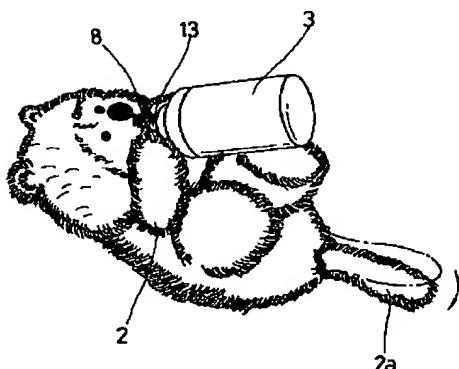
【図 1】



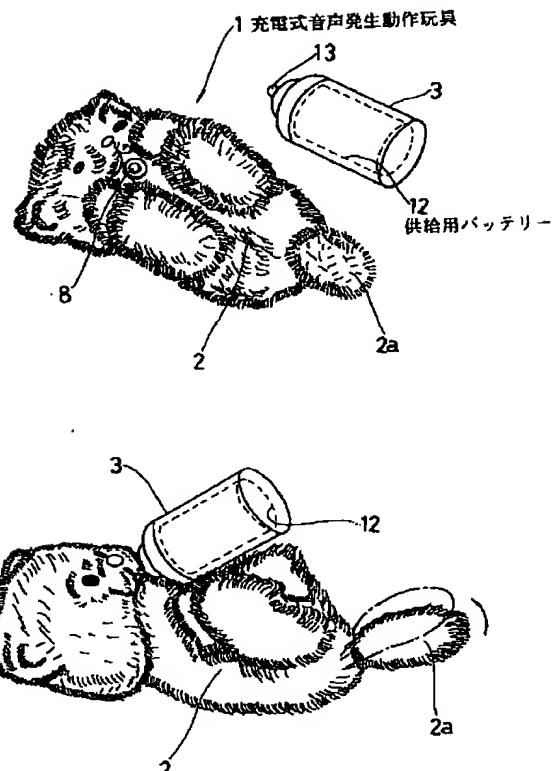
【図 2】



【図 4】



【図3】



フロントページの続き

(51) Int. Cl. 5

G 10 K 15/04

識別記号 庁内整理番号

302 H 7227-5H

F I

技術表示箇所

【考案の詳細な説明】**【0001】****【産業上の利用分野】**

本考案は玩具本体と充電器との組み合わせから成る充電式音声発生動作玩具に関する。

【0002】**【従来技術と考案の目的】**

従来から充電式玩具は種々のものが考案され実用に供されている。特に代表的なものとしては走行玩具が知られている。この走行玩具は充電器によってモータの電源である充電式電池を充電し、該充電式電池によってモータを作動させて走行させるものである。

【0003】

本考案は上記従来の充電式玩具の思想をさらに発展させたものであって、特に本物に近い仕草や泣声を発するリアル感のある面白い充電式音声発生動作玩具を提案することをその目的とする。

【0004】**【目的を達成するための手段】**

上記目的を達成するための手段として、本考案に係る充電式音声発生動作玩具は、人形、動物等の形態を有する玩具本体と、ミルク瓶、食べ物等の形態を有する充電器との組み合わせから成る動作玩具であって、下記要件を備えることを特徴とする。

(イ) 上記玩具本体内には充電式電池と振動センサと音声発生装置と該玩具本体を動作させる駆動装置と充電用コネクタとが電気的に接続された状態で設けられていること

(ロ) 上記音声発生装置は少なくとも二種類の音声を発するように形成されるとともに、充電時のみに発する音声と振動センサが作動時のみに発する音声とを変化させ制御する制御装置に連係され、且つ該制御装置は上記玩具本体に設けられていること

(ハ) 上記充電器には供給用バッテリーと該供給用バッテリーに接続され且つ上

記充電用コネクタに対応する供給電源用コネクタとが設けられていること

【0005】

【考案の作用、効果】

上記構成のように、本考案に係る充電式音声発生動作玩具によれば、人形、動物等の形態を有する玩具本体の充電用コネクタにミルク瓶、食べ物等の形態を有する充電器の供給電源用コネクタを挿嵌接続することによって、上記玩具本体の充電式電池に充電をすることができると同時に、音声発生装置から音声を発生させることができる。次に、充電器を玩具本体から離嵌させた状態において、振動センサが作動すると駆動装置が動作し上記玩具本体を動作させるとともに、音声発生装置からは上記音声とは異なる音声を発生させることができる。

【0006】

具体的には、例えば玩具本体を猫を模して形成するとともに、充電用コネクタを口部に設ける一方、充電器をミルク瓶を模して形成する。そして、該充電器の供給電源用コネクタを上記充電用コネクタに挿嵌接続することにより、充電作業を行なうことができると同時に、音声発生装置からはミルクを飲む音「クチュクチュ」を発生させてるので、充電時における形態と音声とがマッチして面白い。

【0007】

次に、充電器を玩具本体から離嵌させた状態において、振動センサが作動すると駆動装置が動作し上記玩具本体の尻尾を動作させるとともに、音声発生装置からは泣声「ニヤーン、ニヤーン」を発生させてるので、本物に近い仕草や泣声を發しリアル感があつて面白い。

【0008】

【実施例】

以下、図面によって本考案の実施態様の一例について説明する。

【0009】

図3において、符号1は本考案に係る充電式音声発生動作玩具を示し、該充電式音声発生動作玩具1は玩具本体2と充電器3との組み合わせによって構成されている。

【0010】

玩具本体2は猫のぬいぐるみを模して形成されるとともに、その内部には充電式電池4と振動センサ5と音声発生装置6と駆動装置7と充電用コネクタ8と制御装置9とが電気的に接続された状態で設けられている。

【0011】

音声発生装置6は音声合成IC10から成り且つ二種類の音声、すなわち、第一の音声はミルクを飲む音「クチュクチュ」と第二の音声は泣声「ニヤーン、ニヤーン」とが発生されるように形成されている。そして、上記第一の音声は玩具本体2に設けた充電式電池4に充電器3によって充電している時のみに発生するように形成され、また、上記第二の音声は振動センサ5が作動している時のみに発生するように形成されている。上記音声発生装置6から発せられる二種類の音声は後述する制御装置9によって制御されるように形成されている。

【0012】

駆動装置7はモータ11を駆動源とするとともに、玩具本体2内の尻部から尻尾にかけて配置されている。そして、上記駆動装置7が動作することによって尻尾2aを動作させることができる。駆動装置7は従来公知のものを利用すればよい。例えば実願平2-402886号に記載されたものなどがあるが、動作装置7は必ずしもこれに限定されるものではない。

【0013】

充電用コネクタ8は玩具本体2の口部にその先端が露出した状態に設けられている。また、制御装置9はマイクロコンピュータもしくは各種の論理回路から形成されるとともに、充電器3によって上記玩具本体2に充電時または振動センサ5の作動時に対応して音声発生装置6から所定の異なる音声を発生するように制御する。

【0014】

次に、充電器3はミルク瓶を模して形成されるとともに、その内部には供給用バッテリー12が納められている。また、上記充電器3の先端中央には玩具本体2に設けた充電用コネクタ8に対応する供給電源用コネクタ13が設けられている。そして、該供給電源用コネクタ13と上記供給用バッテリー12とは電気的に接続されている。

【0015】

充電式音声発生動作玩具1は上述のように構成しているので、その使用にあたっては、猫のぬいぐるみを模して形成された玩具本体2の口部の充電用コネクタ8に、ミルク瓶を模して形成された充電器3の先端の供給電源用コネクタ13を挿嵌接続させる。これによって、上記玩具本体2に設けた充電式電池4に充電することができる。また、上記充電状態時には制御装置9によって音声発生装置6が制御され該音声発生装置からはミルクを飲む音「クチュクチュ」が発生されるので、上記充電時における形態と音声とがマッチしてリアル感があつて面白い。

【0016】

次に、玩具本体2に充電が完了した状態において、振動センサ5が作動するとモータドライブ回路14を介して駆動装置7が動作し玩具本体2の尻尾2aを動作させるとともに、制御装置9によって音声発生装置6が制御され該音声発生装置6からは泣声「ニヤーン、ニヤーン」が発生されるので、本物に近い仕草や泣声が得られて面白い。

【0017】

上述のように充電式音声発生動作玩具1によれば、猫の形態を有する玩具本体2にミルク瓶の形態を有する充電器3によって充電する時の形態と音声発生装置6から発せられるミルクを飲む音とがマッチしてリアル感があつて面白い。また、充電が完了後に振動センサ5が作動することで駆動部9を介して尻尾2aを動作させるとともに、上記音声発生装置6からは泣声が発せられるので、本物に近い仕草や状況を得ることができる。

【0018】

次に、図4は充電式音声発生動作玩具1の他の実施例を示したもので、玩具本体2の外観がラッコを模して形成されている。そして、この例においても上記と同様の効果を得ることができる。

【0019】

なお、玩具本体2の内部構造は図1と同様であるから図示しない。また、同符号は同部位を示すものであるから、説明は省略する。